

## リーズトリニティ大学（イギリス）

来月には日本に帰国するため、イギリスでの生活も残りわずかとなりました。ここに来てイギリスの気候も落ち着き、日々とても過ごしやすく感じています。

4月に入ってからは雨の日が少なく、基本的に青空が広がっていて気分も上がります。日も明らかに長くなり、20時ごろまで明るいのも嬉しいです。冬に比べて、1日が長くなったように感じます。

一年中このような気候がいいなと思う反面、曇りがちな天気もイギリスらしさがあり、晴れた日の喜びをより感じられるという点では、それも悪くないと思います。しかし、天気はその日の予定や気分に影響するため、今のこの過ごしやすさをとても気に入っています。

## セントクラウド州立大学（アメリカ）

4月は特に大きなイベントはなかったですが、気候も温かくなりはじめ、過ごしやすくなってきたため、外に出る機会が増えました。

2週目の日曜日にはTWICEのコンサートがミネアポリスでありました。初めてアメリカのコンサートに行きましたが日本のコンサートとは全く異なりとてもいい経験ができました。

普段の生活では、勉強をする際には自分の部屋ではなく図書館に行く機会を増やすことで気分転換をしました。勉強する以外の時間は、友達と過ごすことが多かったです。

5月の頭には寮を出なければならないので、そのためのパッキングや日本への帰国の準備にも追われています。寮を出た後は、仲の良い友達のアパートで一緒に3週間ほど過ごします。今までの寮での生活とはまた異なる形の生活がとても楽しみです。

## サンティアゴ・デ・コンポステラ大学（スペイン）

今月はHISTORIA DEL URBANISMO（都市計画の歴史）でプレゼンテーションがあり、OURESEという町の都市計画についてまとめたプレゼンテーションを行いました。その町出身の友達がいるためどんな町か資料づくりを通して少し知ることができてとてもうれしかったです。

フィールドワークも行い、サンティアゴ・デ・コンポステラの旧市街の建物をみんなで回り、どの時代に造られたかなどの先生の説明を聞きとても面白かったです。

とある授業では、課題として川に行き、5つのオレンジを一定の距離流し、川のスピードを計り川の一秒に流れている水の量を計算するというものが出されたので頑張って数値を出そうとおもいます。

もうあと2週間ほどで授業が終了し、テスト期間に入るためしっかりと授業の内容を把握してテストに取り組みたいと思います。

## ベネチア大学（イタリア）

ベネチアのアートと建築の授業では、教会やScuolaに実際に行って、その場で説明を受ける機会がありました。文章で説明を読むよりも、教授の話の直接聞いた方が理解しやすく、背景知識も含めて深く学べていると感じました。

実際の空間を見ることで、建築の特徴や装飾の意味もより具体的にイメージできて、印象にも残りやすいです。



## キール大学（イギリス）

前期から所属しているJapanese Cultural Societyで最後のイベント企画を行いました。前期よりも現地学生との交流を念頭に企画・開催してきたイベントですが、最後は運動会を開催しました。

二人三脚や借り物競争、パン食い競争、箸で豆をお皿に移す4競技を行いました。慣れない箸に苦戦しながらも豆を運び終えたり、お互いに教え合ったりと楽しい時間になりました。パン食い競争はイギリスにはないらしく戸惑っていましたが、楽しんでくれたようで、達成感を感じました。

次週が最後のイベントなので、友人との交流を大切に楽しみたいと思います。また、後期は中々参加できなかった日本語ボランティアにも最終週に参加してきました。日本に関心がある人はこんなに多いのかとキールにきて驚きましたが、そのおかげで出会えた友人も多いので、出会えてよかったなと実感しています。

## 国立台湾科技大学（台湾）

約9ヶ月間ともに生活してきたオーストラリア人のハウスメイトが、4月に帰国することになりました。異なる文化背景を持ちながらも、毎日の生活を通じて自然と築かれてきた絆は、言葉では表しきれないほど大切なものでした。

お別れ前にはみんなで台湾のスローヘ行き、最後の食事を楽しみました。台湾での思い出を語り合ったり、それぞれの今後の展望について話したりと、笑いあり涙ありの温かいひとときとなりました。

その約1週間後、新たに台湾人のハウスメイトが加わりました。ハウスのゴミ捨てのルールや掃除の分担など、複雑な取り決めを日々の生活に支障が出ないように丁寧に説明しました。新しい環境に戸惑う姿に、自分が初めてこのハウスに来た頃を思い出し、懐かしさを感じました。